

「情報科目」のすすめ

著者	井田 正道
雑誌名	思索の樹海(うみ)
巻	2005
ページ	53-57
発行年	2005-04-01
URL	http://hdl.handle.net/10291/15817

「情報科目」のすすめ

井 田 正 道

(いだ・まさみち) 政治経済学部助教授(政治学、計量政治学)。一九六〇年東京都生まれ。早稲田大学商学部卒、明治大学大学院政治経済学研究科博士後期課程単位取得退学、常磐大学人間科学部専任講師、明治大学政治経済学部専任講師を経て二〇〇一年度より現職。二〇〇二年度から二〇〇三年度まで情報科学センター教育専門部会長、二〇〇四年度より情報科学センター副所長(駿河台地区担当)。



新入生のみなさん、ご入学おめでとうございます。これからの四年間は人生の中でやや特殊な時期となるでしょう。それは、さまざまな点で自分の「選択の幅」が非常に広いということです。たとえばどのサークルに入るかということについて、高校時代とは比較にならないほど広い選択肢が用意されており、多くの人は迷うでしょう。このことは授業についてもいえます。高校までは受ける授業を選択するということはほとんどなかったことと思います。それが大学に入ると、多くの科目の中から選択することになります。各学部には教養科目・専門科目と多数の科目が設置されていて、どれを取ればよいか判断に迷うことも多いと思います。その判断をさらに迷わせることになるのが、多くの学部で学部共通科目の一環をなっている情報教育科目の存在です。

大学教育における情報教育の必要性は一九八〇年代後半ごろから指摘されるようになってきました。もちろん、その背景にはパーソナル・コンピュータの普及があります。それまでは、コンピュータを利用する人はごく限られた人々であり、その使い方等は個人または企業で教えればよく、学校教育で教える必要はないと思われていました。一九八〇年代に大学院生であったころ、私はコンピュータを使用して政治の分析を始めました

が、そのころは大型コンピュータを使用し、複雑なプログラムを作らねばならず、何度も挫折しました。何よりもまわりにコンピュータがわかる人がおらず、独学で習得しなければならぬということがつらかったです。

それが九〇年代に入り大きく変化してきます。パソコンが普及し始め、ごく普通の人がコンピュータを使用するようになってきたのです。最もその前にワープロ専用機の普及がありました。これにより、学生のレポート作成や論文作成をワープロで作成する人が増え、キーボードを使用して文章作成をする技術を身につけた人の増大は、パソコンの普及を容易にする一因となりました。そして、八〇年代に私が散々苦勞した統計処理もパソコンの普及に伴う表計算ソフトの発達や統計解析ソフトの発達により驚くほど簡単にできるようになりました。

このようなパソコンの急速な普及は、企業においても社員はパソコンができて当たり前という風潮を生み、当然、学校教育においても情報関係は必ず設置すべき科目ということになりました。しかし、特に九〇年代のコンピュータの進歩の速さは情報教育にも一種の混乱をもたらし、毎年のようにカリキュラムや教育内容の見直しを迫られました。明治

大学情報教育もこの一〇年間で大きく変化してきました。

今日では、高校までの教育課程で情報教育を習得して大学に入学してくる人も次第に多くなり、大学で改めて情報関係科目を取る必要がないと考えている新入生が多くなってきました。しかし、私がみたところ、高校までの情報教育で十分かといえますと、そのようには思いません。たとえば、今日のインターネット社会において、さまざまな情報検索が可能な上に、掲示板という新しいコミュニケーションの場を生み出しました。広く公開されている掲示板には特定のテーマについて様々な人が書き込みを行なっています。そこには書き込んだ人の名前がわからないという匿名性が確保されているようにみえるため、普段は口に出せないような本音や他人に対する誹謗中傷も書きこまれています。しかし、掲示板では本当に匿名性は確保されているのでしょうか？そして、匿名だからといって何を書いても許されるのでしょうか？このようなことは、単にコンピューター技術を身につけただけではわかりません。どのようなコミュニケーションの場においても最低限のモラルがあり、掲示板だけがそのようなモラルと無縁であってよいはずがありません。したがって、情報倫理というものも同時に身につけなければならないのです。

情報科目では、単にコンピューター操作だけでなく、今日の情報社会で必要不可欠な情報倫理、コンピューター犯罪、知的財産権、個人情報などについても取り上げ講義します。「コンピューターはよくわからない」という人はもちろんのこと、「コンピューターはもうできるからいいや」という人も必ずや得ることがあると思われまのでぜひ、履修を検討してみてください。